

日本共産党都議会議員

文教委員会理事

オリンピック・パラリンピック特別委員会

とや英津子のニュースレター



事務所 練馬区桜台1-6-11 TEL 6324-8060

第8期介護保険計画

介護保険運営協議会「答申たたき台」

「加齢性難聴への支援を」盛り込む

補聴器購入への支援に

一歩前進！

この間の皆さんの声と議会論戦が関係者を動かしています。

練馬区の介護保険事業計画運営協議会では、来年度からはじまる第8期の計画に向けて議論を重ね、答申のたたき台が8月末に発表されました。その中に、「聞こえの不調を放置している高齢者への支援が必要である。高齢者基礎調査の結果を踏まえ、加齢性難聴対策の実施について検討されたい。」と一文が入りました。

難聴でお困りの方は多いのに、補聴器が高すぎたり合わないためにご苦労されています。

日本共産党都議団は、この間くり返し補聴器の支援を東京都に求めて来ました。

昨年11月には、東京都医師会の尾崎会長や補聴器工業界会赤生副理事長、東京都中途失聴・難聴者協会新谷理事長を招いて講演会もおこない、聞こえのバリアフリーの重要性を多くの方々に知っていただきました。

東京都の支援制度の活用はもちろん、区でも独自に支援制度を創設するように区議団も論戦し、一緒に求めてきました。今回示されたのは答申のたたき台です。計画策定にむけて区民の声を届けましょう。

スケジュール

- 10月 介護保険事業計画答申(案) 11月介護保険事業計画(素案)作成
- 12月 素案に対するパブコメ

人の言っていることがわからないために、誤解を生じる、電話は聞こえない、すべてにつらい。

アンケートへの
ご協力ありがとうございました。

難聴についてアンケートを集めたところ、FAXやお手紙で、近年ないほどたくさんのご回答をいただきました。このアンケートが都議会の質問でも、大きな力になりました。

聞き返しが多く、トントンカンな返事をすることもあります。この生活から脱却したいです。

本当は両耳とも使った方がよいといわれたが、あまりにも高額なので片耳だけにしました。

加齢性の難聴と補聴器に支援を

聞こえのバリアフリー

65歳以上の2人に1人が難聴といわれています。難聴になれば、家で、外でも、生活が困難になります。政治のサポートを求め、都議会で提案しました。



難聴と補聴器に関するアンケート

結果概要

日本共産党都議団が実施した「難聴と補聴器に関するアンケート」に、527人から回答がありました。回答があった地域は、練馬区85、世田谷区32、杉並区15、江東区24、新宿区20、目黒区10、板橋区4、豊島区22、大田区23、江戸川区3、文京区13、品川区1、東大和市2、武蔵村山市11、東村山市9、東久留米市25、清瀬市23、八王子市42、立川市13、日野市5、町田市92、WEB38、その他15です。結果の概要は以下の通りです。

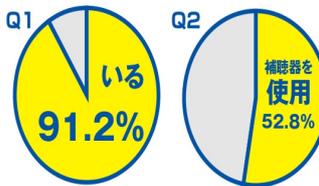
Q1 ご自身やご家族、身近な方で、耳の遠い方・難聴の方はいますか。

いると回答した方の割合は91.2%です。

Q2 Q1で「いる」方にお聞きます。その方は、補聴器を使っていますか。

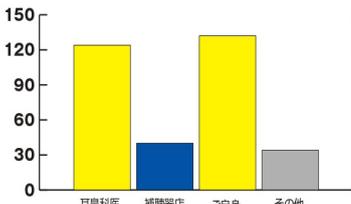
補聴器を使用していると回答した方の割合は52.8%です。

5月8日から6月25日まで実施

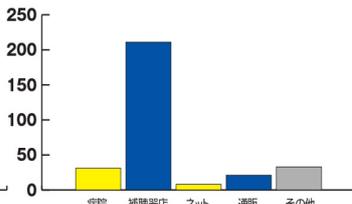


Q3 ご自身やご家族が補聴器を購入したことのある方にお伺いします。

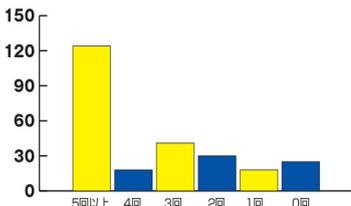
Q3(1) 誰から購入を勧められましたか。



Q3(2) どこで購入しましたか。



Q3(3) 補聴器の調整は行いましたか。



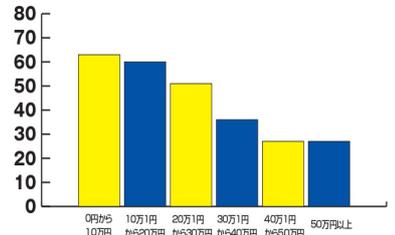
(1) 購入を決めた理由のトップが自分の判断となっており、直接補聴器を売っている店に行き購入しているケースが少なくない。
 (2) 補聴器店での購入が多いが、これにはパートや眼鏡屋など補聴器を売っている店で購入したという場合も含まれている。
 (3) 5回以上調整したという回答がもっとも多いが、補聴器専門店での調整（フィッティング）でないものごとを答えている方もいる。また、0~2回という回答が一定数あり、本人の聞こえに合わせた調整が行われているとは言い難いケースも散見された。

Q3(4) 購入金額はどのくらいでしたか。

平均購入金額は **27万659円**

購入金額の中には、両耳購入と片耳購入が入っており、両耳をそろえて購入した場合には金額が高くなる可能性がある。傾向として通信販売やインターネットの購入の場合購入金額が低い。

もっとも低い購入金額は、区の支給事業を利用した0円。もっとも高い購入金額は、100万円。



Q3(5) 使用頻度はどのくらいですか。

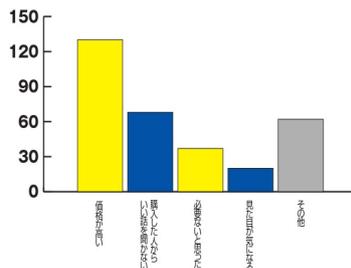
平均使用時間は **9時間52分** **50人** **今は使っていない**

この項目に回答があった人の20.5%

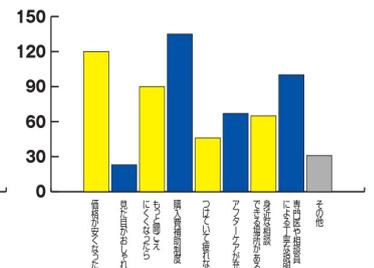
解答欄に直接書かれていないが、使っていないケースは、この数よりも多いことが想定される。

Q4 ご自身やご家族が、補聴器を購入しなかった方にお伺いします。(複数回答可)

Q4(1) 購入しなかった理由は何ですか。



Q4(2) 補聴器を使用してみようと思う動機になるものは何ですか



Q5 ご自身やご家族、身近な方で、難聴や補聴器についてお困りごとを教えてください。その他、ご自由に難聴や補聴器についてご意見をお聞かせください。(抜粋)

- ◆聞こえず、適当に相槌を打っていることが、時々ある。
- ◆人の言っていることがわからないために、誤解を生じる。電話はきこえない。すべてにつらい。
- ◆耳が聞こえないのはかなり悲しいです。大切な事は、何回も聞くなりして、対応していますが、会合などは、つい控えてしまいます。
- ◆本当は両耳とも使用した方がよいと言われたが、あまりに高額なので片耳だけにしました。
- ◆聞き返しが多いです。トンチンカンの返事をする事もあります。TVをみても理解できないことがあります。この生活から脱却したいです。
- ◆話し合いに参加したくない。

日本共産党都議団は、「難聴と補聴器に関するアンケート」に取り組み、504人から回答を得ました。「聞き返すことが多くなった」「広いところでの話し合いに参加したくない」「サークルの中で皆の話が聞こえない」「聞こえず適当に相槌を打っていることがある」など、切実な声が寄せられています。

日本では、かなり重い難聴（※両耳で70dB以上）でなければ、補聴器購入補助が受けられません。一方、世界保健機関（WHO）は、中等度の難聴（※40dB以上）での補聴器の使用を推奨しています。寄せられたアンケートの声からも、価格が高いことが、補聴器の使用にとっての壁になっています。党都議団は、都が行っている補聴器の支援のさらなる充実を求めています。